



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラク・クウェイト関係：ムバーラク港問題

(16日付サバーハ紙)

16日付イラクのサバーハ紙は、クウェイトのムバーラク港問題について報じている。

1. 9日、マーリキー首相は、クウェイトのムバーラク港事業が、イラク経済、およびコール・アブダッラー水路の自由航行に及ぼす影響を協議する閣僚評議会特別会合で、この問題への対処をフォローするための包括的ハイレベル委員会を、ガドバーン首相顧問会議議長を議長として、設置することを決定した。また同首相は、同委員会がイラクへの悪影響を防ぐための措置等について特定するのを待つと述べた。
2. クウェイトを訪問した専門団は次の通り述べた。
 - (1) クウェイト側は同港の支柱を固定するため、イラク領海にて埋め立てを行っている。同港の構築物がイラク海岸に近接していることは、イラクの航行に悪影響を及ぼす問題となる。クウェイト側の設計図と現地視察によれば、全ての構築物は陸上ではなく水上に設計されており、イラクの航行水路の幅を現在の1800mから1100mに狭めてしまう。これは船舶の衝突につながる可能性がある。
 - (2) イラク側専門団は、6項目からなる会議資料を作成し、第6項にて同港事業の即時停止と事業場所の変更を強調した。これに対し、クウェイト側専門団が同項の削除を要求したので、イラク側は会合から退席した。イラク側から、クウェイトの設計図に主要な構成物となる防波堤がないことを質した所、防波堤や波止場は必要ないとの回答であったが、彼らは防波堤がイラク航路の内側に入ってしまうことを恐れていた。